

# 1 テーマ名

ぶどう' BK シードレス' の着果量の違いが品質に及ぼす影響

# 2 目的

九州大学で育種されたぶどう' BK シードレス' は、糖度が高く、高品質、多収、収穫適期の幅が広い、省力栽培が可能などの特徴があるとされている。しかしながら、福岡県での現地栽培されている例では育種親である' 巨峰' とほぼ同じ程度の着果量で栽培されている。そこで、着果量の増加が果実品質に及ぼす影響を調査し、現地において多収栽培が可能であるかについて明らかにする。また、摘粒作業が不要で省力的な特徴があるとされており、花穂整形やジベレリン処理方法を変えることにより、房型に及ぼす影響について調査し、省力栽培の可能性について明らかにする。

# 3 調査研究の内容

(1) 調査圃場：〇〇農場

(2) 供試樹：BK シードレス 3年生 5樹

(3) 調査内容

- ① 着果量の違いが果実品質に及ぼす影響
- ② 花穂整形の方法とジベレリン処理の違いが房型に及ぼす影響

(4) 調査項目

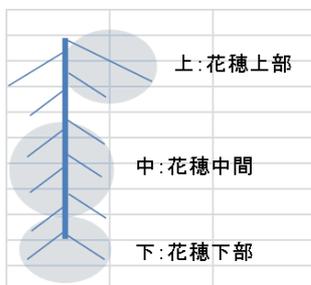
- ① 時期別の果実品質（房型、房重、粒重、着色、糖度、酸度、脱粒）
- ② 房型の経時的変化及び収穫期における果実品質（房型、房重、粒重、着色、糖度、酸度、脱粒）

(5) 処理区の設定

① 着果量の設定

	樹No.	主枝No.
4t着果区	1 B-b-04	②
3t着果区	1 B-b-04	①
	2 B-a-01	①
2t着果区	1 B-b-02	③
	2 B-b-01	①

② 花穂整形の方法及びジベレリン処理方法



	1回目(満開時~3日後)	2回目(10~15日後)	試験場所
①	ジベレリン100ppm (+液体マンガン200倍)	—	B-b-01 ④の道側
②	ジベレリン100ppm (+液体マンガン200倍)	フルメット10ppm	B-b-01 ④の畑側
③	ジベレリン50ppm	ジベレリン50ppm	B-b-01 ③の道側
④	ジベレリン50ppm	ジベレリン50ppm +フルメット10ppm	B-b-01 ③の畑側

#### 4 成果

##### (1) 着果量の違いが果実品質に及ぼす影響

- ・ 2 t 着果区では、9月10日時点で糖度が18.3、着色がカラーチャート値で10.1となり、世羅町のピオーネ出荷開始基準を満たしていた。(世羅町におけるピオーネ出荷開始の目安：糖度17°以上、着色9以上)
- ・ 3 t 着果区は9月10日、17日時点では糖度がともに17.4となり、ピオーネ出荷基準を満たしたが着色はカラーチャート値で8.8、8.9となり出荷基準は満たさなかった。しかし、10月以降、糖度はどの調査日も19を超え、着色は10月21日時点で9以上となった。
- ・ 4 t 着果区は9月10日、17日時点では糖度がそれぞれ15.2、15.9となり、ピオーネ出荷基準に達しなかった。しかし10月以降は糖度19前後まで上昇した。着色については、10月21日になっても9以上まで上昇することはなかった。
- ・ これらの結果から、3 t 着果区及び4 t 着果区では、10月以降に収穫期を迎える可能性があることが示唆された。

##### (2) 花穂整形処理の方法及びジベレリン処理の方法が房型に及ぼす影響

開花後から1週間おきに処理方法ごとに房型の写真を撮影し、10月13日にすべての房を収穫し果実品質調査を行った。その結果、房型及び果実品質に違いは見られなかった。(データは省略)

9月10日



9月17日



10月1日



10月13日



10月21日



各処理区の収穫日ごとの房型及び着色状況 左から 2t-1, 2t-2, 3t-1, 3t-2, 4t 着果区

## 着果量ごとの果実品質調査結果

	9月10日	9月17日	10月1日	10月13日	10月21日
房重(g)					
2t区	422.7	443.2	414.3	436.2	397.0
3t区	538.7	566.2	476.8	516.0	507.5
4t区	508.7	627.7	601.3	456.0	523.7
1粒重(g)					
2t区	10.9	11.4	11.4	10.7	10.4
3t区	13.0	12.7	12.7	12.9	12.7
4t区	11.7	13.7	13.8	12.0	11.7
糖度 (Brix°)					
2t区	18.3	18.8	20.4	21.2	22.3
3t区	17.4	17.4	19.3	19.0	20.1
4t区	15.2	15.9	19.0	18.5	18.8
着色					
2t区	10.1	10.8	10.7	10.4	11.0
3t区	8.8	8.9	8.3	8.4	9.3
4t区	5.7	6.0	8.2	7.8	6.7

### 5 普及指導活動における活用方法

着果量を変えた場合の、果実品質や収穫時期に及ぼす影響についてのデータを収集することができた。この結果を、現地での着果量の設定や栽培管理の参考とする。

### 6 留意事項

今回は単年度の調査であるため、着果量の違いによる翌年の樹体への影響などについて継続調査を行う。

